

# Action Plan (Japanese)

## 2025-2026 Invitation Programme for Japanese Teachers to Republic of Korea



Group B

# 活動の振り返り

## （高校、小学校訪問）

恵まれた教育予算の中で、国際的視野に立った総合的な人間教育に工夫して取り組んでいる様子が分かった。公立高校でIB教育が推進され、難関大学を目指す学習指導に偏らず、思考力、表現力、国際的視野を意識した教育実践を学んだ。小学校では、保護者との協力のもと、多くの国との国際交流を通じた人間形成を推進する方法を学んだ。国際交流を行う学校は、児童生徒も職員も共に生き生きとしていた。受け入れ準備の苦労より、得られる感動が上回ると思われる。

## （施設訪問）

済州4.3平和記念館では、国内外問わず平和を訴えていく強い意志を学んだ。海女博物館では、郷土や自然を愛し、郷土や職業に誇りをもって生きる大切さと強さを学んだ。

## （韓国の方々とのふれあい）

日韓教師対話では、共通の教育課題について議論でき、有意義であったとともに、韓国教師の積極的な姿勢を学んだ。ホームビジットでは英語に対する家庭教育の意識の高さに驚いた。韓国の人たちは戦時中の日本とのかかわりを決して忘れないが、日本に関心をもち、日本と対話しようと努力している様子が強く伝わった。自分自身、日本と韓国の歴史を忘れず、自分の思いを韓国の人に伝え、お互いの思いを理解する努力を続けたいと考えた。また、その思いを目の前の生徒や地域の人々にも伝え続けていきたい。





# アクションプラン

## プログラムの経験から成し遂げたいこと

国際交流は、ユネスコ憲章にある「人の心の中に平和のとりでを築く」ことに結び付くと学校内外に伝え、実現可能な形態で国際交流を実現する。

### (学校内で)

- ①全校集会で生徒と教職員に今回のプログラムの概要をスライドで発表し、国際交流が平和に結びつくことを伝える。
- ②今回のプログラムから韓国を紹介する掲示物を作成して校内に掲示し、生徒や教職員に国際交流への興味・関心をもたせる。
- ③韓国学校訪問や日韓教師対話で出会った韓国の教師に連絡し、実現可能な国際交流を計画する。

### (学校外で)

- ①上越市中学校長会で今回のプログラムをスライドで報告し、各校に国際交流の重要性を訴える。
- ②小中学校連携組織や地域連携組織で今回のプログラムをスライドで報告し、国際交流の重要性を地域に訴える。





# 活動の振り返り

## ① 韓国の教育 ～学校訪問・授業実践～

同じアジア圏で隣国の韓国の学校教育を視察させてもらい、似ている部分と異なる部分を感じることができた。6・3・3制など似ている部分は多くありつつも、清掃指導や給食指導などで違いを感じた。英語教育の充実も感じた。しかし、子どもたちの素直さ、明るさは国を超えて同じだと感じた。

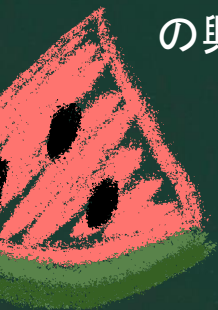


## ② 韓国の“人” ～ホームビジット～

ホームビジットで夕食をご一緒させていただいたり、市場を案内していただいた。それだけにとどまらず、最終日前日には再び夕食に誘っていただいた。街中でも見ず知らずの人から日本語で話しかけられることもあり、韓国の人たちの優しさと日本文化への興味・関心の高さを感じた。



☆教育、自然、歴史、文化。多方面で韓国のことを知り、日本との共通点、相違点から改めて日本のことについて考えるきっかけとなった。



# アクションプラン



## ① 教員への共有

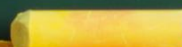
- ・研修報告として、資料を作成し、全先生方へ配布を行った。
- ・夏休み最終日の職員会で短時間、先生方への共有を行う。

## ② 勤務校の生徒への共有

- ・掲示物を作成し、全校生徒が見られるようにした。
- ・今回の研修でつながった先生と連絡を取り合い、有志の生徒による放課後の交流を行いたい。

## ③ 未来の子どもたちへの共有

- ・今回の研修で、韓国（済州）の教育・文化・自然・歴史を肌で感じ、学んだ。これを今後、継続的に、子ども、教師、保護者等に様々な場面で共有していく。







# ★ふりかえり★



## ①学校訪問（ピョンソソ高校）

IB教育を取り入れたCAS活動や協同学習を通じて、生徒同士が高め合い、安心して発言できる学びの環境が整えられていた。「保護者や教師の強要ではなく、人生に未練がなく、本人の希望通りの道を進んで欲しい」という教師の言葉が印象に残った。今の私の授業や指導は、児童の思いを尊重できているのか改めて考えさせられた。



## ②学校訪問（インファ小学校）

日本語で挨拶をしてくれる児童が多く、アニメを見て覚えているという話に驚いた。常駐のカウンセラーの先生による週1回の授業や生徒指導、行政関係等と、教科の授業がきちんとすみ分けされており、教師が働きやすい環境が整えられていた。



## ③平和の島

4・3事件という悲劇が、半世紀近くそのことについて話すことを禁じられており、私たちだけでなく、韓国人でも知らなかった人が多くいたことに衝撃を受けた。この事実を継承し、平和な世界を作っていきたいという思いが、言葉の壁を越えて、記念館のガイドの力強い目から伝わってきた。

## ④出会い

韓国のKNCUの方々、高校や小学校の先生方が済州の学校・歴史・文化などをしっかりと私たち伝えられるよう準備や計画してくださったことが至るところで感じられ、忘れられない時間と貴重な出会いを多くいただいた。また、全国の先生方との出会いからも、多くの刺激を頂き、今後の糧としていきたい。私も必ず恩送りをしていきたい。

# ★アクションプラン★

## ①勤務校で職員向けに活動報告の実施

- ・韓国と日本の教育や文化を中心に類似点や相違点についての報告会を開く。（韓国の良かったことだけでなく、日本の良かったことについての気づきも伝える。）
- ・お土産に済州島での体験を写真とメッセージを付けて配布する。

## ②勤務校の児童向けに韓国についての授業の実施

7月に本校児童が韓国の児童に質問したいことについて動画を撮影した。その質問を研修中に出会った小学生やホームビジットでお世話になった家の児童に答えてもらった動画を見せ、児童にも韓国と日本の類似点や相違点について考える異文化理解の授業を行う。また、韓国や済州島の教育・文化・自然・平和についての異文化理解の授業も行う。

## ③勤務校の児童と韓国の学校との国際交流

研修中に出会った韓国の先生方とのつながりやソウルの国際共同授業をオンラインで行う。その際、自己紹介やお互いの国の良いところを英語を使って紹介し合いたい。

## ④他校の教員向けに活動報告の実施

夏休みにある外国語の小教研で、研修の内容の報告やオンラインで国際共同授業ができることを伝え、国際交流に興味をもって取り組める仲間を増やす。

## ⑤掲示物

- ・印刷室に研修についての掲示物を貼り、報告会を聞けなかった同僚にも周知する。
- ・イングリッシュルームの窓に掲示し、幅広い学年に韓国について知ってもらうきっかけ作りをする。





## 活動の振り返り

### ピョソン高校(IB校)

#### Vision: "Better Me, Better World"

IB指定校として記述・論述型の授業を実施し、探究活動や国際理解教育に力を入れている。また、夜9時まで学校で学習できるなど、それぞれの進路に向けて学習に集中できる環境が整っている。地域の課題解決を目標とした探究活動発表では、英語で説明したり、質疑応答したりするグループもあり、実践的な英語力の高さを感じた。教師陣の意識も高く、学校として一丸となって取り組んでいる様子が見られた。



栄養価が高く、  
味も良く、量も  
十分な給食！

### 済州多文化教育センター

海外にルーツを持つ生徒が韓国での生活に慣れるためのサポート施設。言語補助だけでなく、カウンセリングや生活全般の支援、料理教室などの異文化理解のための楽しいイベントもあり、とても充実していた。こういった施設が各地にあれば孤立化せず、地域にすぐ馴染めると思う。

### 4・3平和記念館 ユネスコ「世界の記憶」に登録

今回の研修で一番心に残った場所。この記念館に来なければ知り得なかった事実が多くあった。被害だけでなく、加害の史実も隠さず展示されていることに感銘を受けた。歴史は多面的に見て考えなければならないことや、平和を維持していくこと、平和教育の大切さについて考えさせられた。次回、済州島を再訪するときには外の石碑も含め、もっと時間をかけて見学したい。



4.3の正式名称が刻まれるのを待つ『白碑』

### インファ小学校&ホームビジット

6年生に対して日本文化授業を実施。生徒は行儀よく、発言も活発にしてくれた。日本のアニメや漫画など、ほぼリアルタイムで輸入されており、人気作品も日本の小学生と似通っていた。教室設備も充実しており、机や椅子なども新しく使い勝手がよさそうだった。また、本格的なオーケストラがあることに驚いた。ホームビジットでは日本人教師3人でお世話になった。温かく迎えてくださり、とても楽しい時間を過ごした。キムチ用の冷蔵庫や伝統工芸の筆筒なども見せていただいた。手料理はどれも美味しく、心づくしのおもてなしには感謝しかありません。



残食カウンターで  
SDGsへの意識を高  
めていた！

### 日韓教師対話25周年記念教師フォーラム

限られた時間ではあったけれど、韓国・日本の学校や教師の働き方、教育内容、国際交流について講演を聞いたり、互いに話し合えたことがよかった。食事を共にしたときには、サムギョプサルの食べ方などを教えてもらい、すぐに打ち解け、楽しいひと時を過ごせた。対面交流だからこそその経験をさせてもらった。

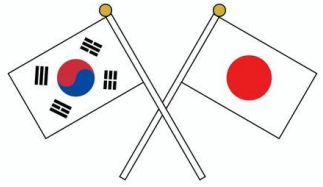
### 海女博物館

家事・育児もしながら一家の大黒柱として活躍してきた海女の歴史や道具などが一斉に展示されていた。時には20メートル近く潜って貝を採ることもある危険な職業であると知った。ユネスコ無形文化遺産になったものの、後継者不足であることが現役海女のお話から伺えた。





# アクション・プラン



## 1. 韓国研修報告（夏休み後）

### ①英語の授業で紹介

簡単な英語クイズを用いながら、1学年（6クラス）対象に韓国（済州）について学ぶ。

学校、食べ物、家などの身近な話題から多文化共生、国際理解、平和などについても考える機会とする。

### ②廊下にポスター掲示

①の授業での紹介が終了次第、廊下に掲示。他学年の生徒や教師も閲覧できるよう、全学年共有の階段踊り場スペースを活用する。

## 2. 韓国の学校と交流活動（2学期～3学期）

どの学校とするかは未定であるが、できれば小学6年生～中学生の同年代の生徒と交流していきたい。  
また、英語を使用して交流することにより、実践的コミュニケーション力の向上・異文化理解と「自国だけでなく外の世界も探究する」姿勢を育みたい。

生徒の英語力も考慮し、考えているトピックは以下の通り：

### ①学校紹介（PPT）

### ②我が町紹介（PPT）

### ③SDGsへの取り組み（PPT）

### ④流行っているもの紹介（PPT）

### ⑤①～④の交流を経て、オンライン交流会（質疑応答）



## 3. 諸外国の学校や生活様式について調べ、英文ポスター制作（2学期）

諸外国について調べ学習を行うことで自国との違いや共通点を探り、異文化理解や多文化共生の意識向上につなげていく。

## 4. ゲストティーチャーによる異文化理解

地域在住の外国出身の方に母国紹介や日本での暮らしについて話を聞き、誰にでも住みよい社会とは何か、中学生の自分たちにできることは何かについて考える機会を持ち、実践につなげていく。



# 2025韓国政府日本教職員招へいプログラム 活動振り返り

## 済州4・3平和記念館

### 【気づき】

歴史上、残酷な事件であることに衝撃を受けた。理由は様々であるが、長い年月、公にできなかったことについても驚愕した。また、実際の事件の概要を詳しく説明してくださる中で、謝り続けなければ、被害を受けた人、家族は許すことができなと感じた。あわせて、この事件だけでなく歴史の中での争いは全て、被害を受けた人が居るということを忘れてはならない

### 【今後の展望】

広島県の平和教育とここでの経験したことを融合させて、道徳や特別活動で教えていきたい。また、国際平和を追求する大切さは全生徒実感をしているが、行動することの難しさも併せて実感している。だからこそ、一人ひとりが今できることを具体的に考えさせ、実践させていきたい。

## 日韓教師対話

## 25周年記念教師フォーラム

### 【気づき】

事前学習で、韓国の教育事情について把握をしていったつもりだったが、実際に教職員の皆様と対話をする中で、共通点を多く感じ取ることができた。目指す児童生徒像、悩みなど「人を育てる」職責を改めて考えさせられた。特に、道徳科・社会科を専門に指導している教職員と対話することができたことは大きな成果だった。歴史的な事象は事実に基づいて、客観的に指導すること、道徳科は礼儀を中心に道徳性を養うこと、だからこそ、自己の知識をより深める必要があることに気付いた。道徳科の先生は、哲学書などを多く読んでいたと伺った。答えのない道徳性を育むためには、言葉の定義・語源等を本質から学ぶ必要性を感じた。

### 【今後の展望】

日韓の教育事情の共通点・相違点を所属校及び所管する教育委員会に還元をしていきたい。また、韓国の学校と交流ができる機会を設定していきたい。

# 2025韓国政府日本教職員招へいプログラム アクションプラン

## アクションプラン（児童生徒の国際的視野の実践意欲を育てる。）

### 【所属校における全校道德の実施】

≪主題名≫ 世界平和のために

≪内容項目≫ 「国際理解・国際貢献」

≪ねらい≫

韓国の生徒が国際理解・国際貢献に対して大切にしている心構えを知る活動を通して、国際的視野に立ち、世界平和のために自分ができることを主体的に模索し、実践することが重要であることを自覚するとともに、世界平和や人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てる。

### ≪授業展開概要≫

○国際理解・国際貢献を考える上で、価値理解（大切だと分かっているが難しい面）

○韓国の生徒が国際理解・国際貢献に対して大切にしている心構えを予想する。

○実際の韓国で直接体験したこと、児童生徒の様子、ホームビジットでの日本への思い、韓国の教職員の日本に対する指導方針、多文化（様々な移住者）への支援について知る。韓国の児童に回答してもらったアンケート結果の共有を図る。

○済州4・3事件の概要について学び、広島との共通点、人々の思いなどを考える。

○自己の生き方を見つめ直し、明日からできることを考える。（壮大なことだけでなく、現実的なプラン）

○ふりかえり

### ≪備考≫

- ・兼務校の小学校では、韓国研修記という形式で、実際に文化授業をした学校紹介や韓国文化の紹介を行う。
- ・本授業の様子を日本の先生（特に沖縄県の先生：平和教育の視点）と共有を図る。
- ・来年度に向けて、韓国の学校と交流できる機会を模索する。



# 韓国派遣プログラム 活動の振り返り



## 教育機関への訪問

インファ小学校、ピョソン高校をはじめとする済州の教育機関への訪問を通して、日本の学校との共通点、相違点を感じることができた。文化的、地理的にも近い両国の学校だからこそ、訪問した際の学びが多かった。



## 日韓教師対話フォーラム

韓国の先生方と教育についての意見交換を行い、目指すべき生徒の姿や授業の方向性などを共有した。道徳教育を通じた人格形成など、日本がさらに注力していかなくてもいけない部分も知ることができた。



## 参加者とのつながり

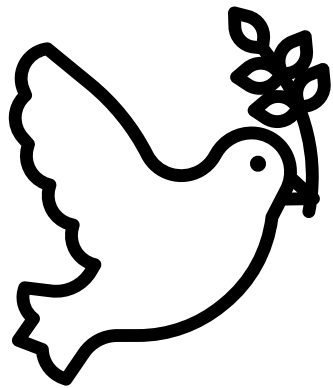
今回の派遣プログラムに参加した国内の先生方とのつながりを得られた。普段はあまり関わることはできない他府県の先生方と地域の課題や日本の教育が進むべき方向性を議論することができた。

# アクションプラン



## 研修内容の共有

校内研修で、勤務校の先生へ今回の研修内容を共有し、勤務校の生徒への充実した学校生活に繋げる。また、勤務している校区内の小学校へも研修内容の共有を行い、町全体の教育力向上を目指す。



## 平和学習の実施

勤務校の全校生徒へ平和学習の教材として済州4・3事件を扱い授業を行う。国際的理解を通して平和について考えるというテーマで授業を行い、国際理解のためにはなにが必要か、平和な未来を作るために、自分ができることについて考えさせたい。





# 【振り返り】

## ①学校訪問

ピョソン高校では、IB教育における実践的な取り組みについて学びました。特に印象的だったのは、授業を通して生徒が主体的に主張を確立できるように、教員が問いの工夫をしていることです。生徒の思考力や表現力を引き出す教育のあり方について、多くの気づきを得ることができました。インファ小学校では、韓国語で日本の文化を紹介する授業を実施しました。様々な経験を通して、日韓両国の文化や教育の相違点、そして共通点について比較し、深く理解する機会となりました。

## ②平和教育

分断国家である韓国で行われている統一教育や平和教育、済州島の4・3事件など、日本ではあまり知られていない教育内容や歴史について現地で学ぶことができたのは、非常に貴重な体験でした。さまざまな話を聞く中で、今を生きる私たちが【歴史】や【平和】について考える重要性を改めて感じることができました。

## ③日韓教師対話フォーラム

韓国の学校の取り組みについて、現場の声を直接聞くことができました。国は異なりますが、教育に関する共通の課題を抱えており、情報共有や意見交換を行えたことは大きな収穫でした。また、韓国の先生方と韓国語を使ってコミュニケーションを取ることで、より深い話をすることができました。

# 【Action Plan】

## ① 研修内容の報告・共有

- 勤務校の教職員を対象に、研修内容を報告する場を設ける。
- 今回の研修内容をもとに、日本と韓国の相違点や類似点について学ぶ異文化理解の授業を行う。

## ② 韓国の学校とのオンライン交流授業の実施

- 両国の生徒の国際交流の場を設置し、互いの異文化理解を促進する。
- 韓国で知り合った先生方との交流を継続していく。



# REFLECTION

## 2つの学校訪問を通して

### ①表善（ピョソン）高等学校

スヌン（大学入試）のための学習ではなく、参加・発表・表現ができる子を育てるIB高校である。CAS活動などを通して社会をつながる学習をしていた。「質問が変わると学びが変わる」という言葉が深く心に残った。

### ②仁和（インファ）小学校

学校見学を通して、日本の公立の学校とは比較できないほど施設が充実していた。宿題や塾など、保護者の教育への関心の高さをうかがうことができた。

## 無形文化遺産

### 済州海女博物館

済州の海女文化は、2016年にユネスコ人類無形文化遺産に登録された。生きるために潜り、自然をいただく、これまで受け継がれてきた海女の強さと大変さを展示や講話を通して、感じる事ができた。

## 平和学習

### 済州4・3平和記念館

4・3事件とは、第二次世界大戦後に起きた悲慘な事件である。日本もアメリカもソ連も無関係ではなく、誰が正しくて、誰が悪だということをはっきりとは示すことができない。ただ一つ、みんなで平和な世界をつくるということ、考え続けなければならないことは、絶対に正しいことである。分断された国家で生きる権利と義務について、本当の平和とは何なのか、深く考えさせられた。

## 子どもたちの学びを支える取組

### ①済州多文化共生センター

海外からの移住者を対象に子どもや親への支援をするほか、学校へもパッケージの貸出を行っている。

### ②済州融合科学研究院

地域の学生が施設を利用できるだけでなく、地域の子どもたちも楽しみながら科学を学ぶことができる。



# MY ACTION PLAN

## ①自分のルーツをたどる。

美しい自然があり、優しい人々がいた。また、悲しい過去を抱えているからこそ、平和の大切さを知り、未来に向かって発信している。そんな済州にルーツがあることを誇りに思う。やはり、自分のルーツは“強み”だった。これからも学習活動に活かしていきたいと思った。

## ②国際理解・多文化教育を進めていくための今後の足がかりとする。

このような取組を進めるには、まず時間が必要である。教育課題が様々にある中で、学校として何を大切にするのかや、教員同士の協力、外国語専科としてできることを精選して、時間を確保していくことが大切であると考えた。そのためにも、研修で学んだことを自校・兼務校の先生に伝える機会を設けたい。

## ③外国語として英語を学ぶ（EFL）の環境において、どのように外国語の学習をしているのかを知る。

前提として、英語への興味関心が高いので、あまり比較対象にはならないかもしれないが、外国語を学ぶ必要性を伝えたり、オンラインでの交流を通じた実体験を伴う活動をしていきたいと考えている。

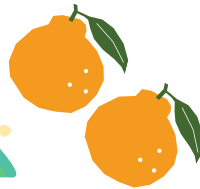
## まとめとして

ヨンシ先生のお話の中にあったBiestaの教育の3つの側面についてもう一度考えたい。もちろん、学校は資格化を保証する場ではあるが、学校は「教育」をする場である。ゆえに、社会化、主体化もよいバランスで行う必要がある。「よい問い」に出会わせ、「よい教育」を考え続けなければならないと改めて考えた。





## 振り返り



### 学校訪問（ピョソン高校）

「プロジェクト」という学習のまとめの報告会の時間を参観した。身近なテーマから課題を見つけ、自分なりに思考を深めながら探究していく学びのプロセスは、日本の「総合的な学習の時間」の活動と多くの点で共通していると感じた。これからの社会で活躍する子どもたちを育てていくためには、教員自身が、子どもたちの「考える力」や「表現する力」を育む工夫をし続ける必要があることを、改めて実感した。

### 韓日対話を通して

日韓の多くの先生方とさまざまな視点から教育現場の課題や工夫について話し合い、互いに学ぶ合う非常に貴重な機会となった。また、心身ともに健康的な働き方を保ちながら、子どもたちの学力向上や成長をどう支援していくかについて、教員同士で悩みを共有し、一緒にじっくり考える時間を持てた。子どもたちのために最善の環境を整えるには、教員自身の健康管理も非常に重要であると改めて認識した。

### 学校訪問（インファ小学校）

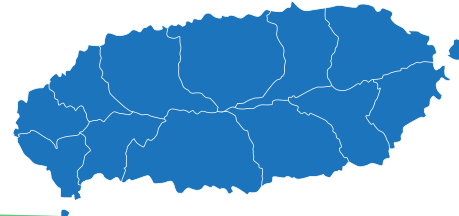
授業や児童の様子から、日本の子どもたちと変わらない表情や反応が見られ、共通点の多さに親しみを感じた。伝統文化や流行、言語などの面でも、両国の文化が似通っていることに驚かされた。一方で、韓国の社会科では日本の植民地支配に関する学習が行われており、日本人に対して不安を抱く児童もいた。文化授業を通じて「もっと日本のことを知りたくなった」と感想を述べてくれた児童もあり、交流の意義を改めて実感する機会となった。今回の経験を通じて、相手への思いや考えを自らの言葉や行動で伝え合う姿勢が、今後の国際理解において重要であることを強く感じた。

### 済州海女博物館

済州島の海女について学び、自然と共存しながら、共同体の力を合わせて過酷な環境を乗り越えてきたことが理解できた。悲慘な歴史的背景を持つ済州島の女性たちは強く逞しい存在であると感じた。また、気候変動の影響により済州の海も変化しており、環境問題は地域を越えた共通の課題であることを改めて認識した。今後、みんなで協力して考え、行動していく必要があると痛感した。



# アクションプラン



## ① 児童への還元

韓国の小学校における学校生活や文化、流行などを、日本との共通点・相違点に着目しながら紹介する。児童が楽しみながら学べるよう、スライドやクイズ形式を用いた工夫を凝らす。また、済州島で学んだ環境に配慮した地域の取り組みや、各校での実践も紹介し、児童の視野を広げる機会とする。



## ② 職員研修での共有

韓国の教員との情報交換を通して得た、教材研究やICT活用、教員配置の工夫などを校内研修で紹介する。あわせて、思考力・判断力の育成に関する教育の在り方や支援の方法についてもスライドで共有する。



## ③ 交流校との連携

「気候変動」をテーマに共同学習を進めているソウル市内の小学校にも、済州島で得た環境保護に関する情報を伝え、今後の学びに生かせるよう働きかける。





# 韓国研修 振り返り

## ＜表善（ピョソン）高校＞

- 地域の問題解決などの探究活動を主体的に行っており、生徒自身の学習に対する意欲が高いことや学習発表の充実した内容に驚きました。また、生徒が行いたいことを行うことのできる環境であることやそのための働きかけを先生方が体系的にされていると知りました。
- 長崎県にはないIBスクールを見ることができ、育む生徒の姿が新鮮でした。韓国でも日本と同じように大学入試が変わってきていることを知り、日本もどのような高校生を育むのか、そのためにどのような教育を行うのかよく考えなければならぬと感じました。

## ＜仁和（インファ）小学校＞

- 生徒が過ごしやすい環境づくりにするために、天然芝やカウンセリングルームなど様々な工夫がされていました。また、食品ロスや共働き世帯の増加など、社会的な問題に対しても学校という場で積極的に解決に向けて取り組んでいることを知り、日本でも取り組めたら良いなと思いました。
- 授業では、日本のことについて知りたいと思っている生徒が多い印象を持ちました。また、韓国のあそびを教えてくださいと充実した昼休みを過ごせました。

## ＜ホームビジット＞

- ホームビジット先のお母さんが日本に住んでいたこともあり、日本語がすごく上手でした。インファ小学校に通っている子どもも、日本語を自分で学ぶほど、日本に対して良いイメージを持っていることが嬉しかったです。すごく優しいご家庭で、現在もカカオトークを通じて連絡を取り合っており、このご縁を大事にしたいと思っています。

## ＜済州4・3平和記念館＞

- 最初のきっかけはほんの些細な事から大きく長い闘いの時期に入っていたのだと知り、平和であることは難しいが、とても重要であるのだと改めて思いました。また、40年もの間、他の人には言えない状況であったことに驚きました。「自分の国を守りたい」という想いは、現在起こっている戦争にも通ずる部分があると思いました。

## ＜日韓教師対話25周年記念教師フォーラム＞

- 日本での教育課題と同じ内容も多く、韓国の先生方と一緒に考えることができたことが印象的でした。韓国では、「生徒を中心により良い教育を」という意識が強く、学校現場だけでなく、国全体で進めていました。

# アクションプラン

## ＜校内での研修報告＞

- 教職員向けに9月の職員会議の中でパワーポイントを使いながら研修報告を行います。

## ＜家庭科の授業＞

- 今回の研修の中で、韓国の衣食住に関することを体験できたので、家庭科の授業の中でも取り上げていきたいです。

## ＜鳴湖（ミョンホ）高校の生徒との交流＞

- 1月に韓国より高校生が本校に来校するため、今回自分が受けたおもてなしを高校生にもできるように準備していきたいと思います。
- 研修部の先生方と高校生同士の交流が充実したものとなるように一緒に話し合っていきたいと思います。





# REFLECTION

## 2つの学校訪問-ピョソン高校・インファ小学校-

・IB導入校であるピョソン高校では、成果発表会を見学。生徒たちが社会課題に対する解決策を自分たちで考え、英語で堂々と発表する姿が印象的。正解のない問いに向き合い、自らの考えを深める探求的な学びを実感。教師の関わり方については「答えを教える」のではなく「問いかけの質」で学びを導くというのが印象的。

・インファ小学校では、分業制が進んでおり、担任が授業に集中できる体制が整っていた。給食指導や清掃指導もなく、業者・専門職が支える分業環境。教師は授業に専念しつつも、放課後プログラム等に夜遅くまで関わる熱意があり、日本以上の教育投資と労働負担の現実を感じた。  
「当たり前」だと思っていた日本の生徒指導のあり方や、教育の負担感についても、改めて考えるきっかけとなった。

※高校まで給食費は無料。

## 教育を支える環境

・多文化教育センターでは、外国にルーツをもつ子どもたちへの個別支援・文化理解教育を実践。  
・教育のなかで、子どもと保護者の両方を支援する仕組みがあり、教師だけでなく地域や専門職が関わる体制に学びがあった。  
・済州融合科学研究院では、科学技術高校・研究機関・科学館の一体型運営に驚いた。  
・専門研究機関と連携した指導、キャリア教育と最先端技術に触れる機会が充実していた。

## 平和学習-済州4.3平和公園-

・済州島で起きた「4.3事件」から、語ることすら許されなかった悲しい歴史を知る。  
・誰が正義で誰が悪なのか。簡単には線引きできない現実直面し、戦争・分断の複雑さを感じた。  
・命の尊さ、言葉にならない苦しみを前に、「平和教育」の本質と向き合う時間になった。  
・沖縄とも重なる歴史や背景に、日本に住む子どもたちにも伝えていきたいという強い思いが芽生えた。  
・教育は、過去を見つめ未来をつなぐ「架け橋」だと再確認した。

## 済州の文化遺産-海女博物館-

・済州の海女たちの命がけの仕事と支え合う共同体の姿に深く感銘を受けた。  
・過酷な自然と向き合いながら家族を支え続けた、女性たちの強さと誇りを感じた。  
・植民地時代、日本が海産物を搾取していた歴史、竹島近辺での海女の活動など初めて知る事実もあった。



# ACTION PLAN

- ① 勤務校で受け持つ学年および希望する学年の児童に対し、韓国の小  
学校生活や文化について紹介する授業を行う。チェジュ島での写真や  
動画を活用し、子どもたちにとって親しみやすく、楽しく学べるよう  
工夫する。
- ② 職員に対しては、韓国の教育事情（ICT・教科書・時間割など）を  
共有する報告会を開く。韓国と日本の教育の違いに着目し、今後の実  
践のヒントとなるような発表を心がける。
- ③ 石垣市内の教職員を対象とした機会（校内研究会・ブロック会な  
ど）でも、本研修で得た知見を報告・共有し、韓国への理解を広げる  
一助とする。



# 振り返り

## 学校訪問

- ・ピョンソン高校では、IB教育の展開により「探究型学習」「教科横断的な学び」「国際的な視野の育成」が確立されていることがわかった。
- ・インファ小学校での文化授業をとおして、異文化理解へのきっかけやグローバルな視点の育成に関するヒントを得た。

## 教育機関訪問

- ・済州多文化教育センターのように、児童生徒の異文化感受性を高めるための教育プログラムを運営する施設が日本にも増えることで、多文化共生教育を更に推進できるとよい。
- ・どの国でも欠かせない平和学習。済州4・3平和記念館で学んだ「記憶は未来への責任」ということを深く心に刻んでおきたい。

## 自然・文化遺産

- ・10万年前の海底噴火によってできた巨大岩山「城山日出峰」。理科専科としても、生きた教材を肌で感じられたのは大変意義深い。
- ・「海女に出会う」プログラムを体験して、学校外の教育コミュニティとしての博物館、地域社会の役割と協力について考える機会となった。



# アクションプラン

## ①出張報告の実施(7月末)済

勤務校の教職員を対象に、韓国と日本の教育制度、環境、文化についての共通点や相違点、類似点を伝え、日韓の相互理解を深める。



## ②西都市内での共有(8月中)済

外国語及び国際理解教育担当として、韓国での研修に関するプレゼン資料を作成し、市教委を通じて情報共有する。



## ③勤務校と韓国の小学校による国際交流の実現(11~12月)

手紙やペンパル、オンライン等による異文化交流を行う。互いを「知る(知識)」ことから始め、再び「つながる(交流)」を経て、最終的には、共に「創る(実践)」活動に発展させていく。





## 韓国政府日本教職員招へいプログラム 活動の振り返り(学んだこと)

### 1 PBLを通じた学校間交流

7月15日、訪問校にて探究学習発表を視察。発表内容に沿って、こちらからプロジェクトを提案することで、9月からオンラインでのプロジェクトを行うことになった。

### 2 平和学習

「戦後80年の日本」と「戦争が未だ現実的なものである韓国」の違いを感じた。両国の生徒がパートナーシップを築く上で、その認識を持たせることは難しいが、重要な課題であると考えた。

### 3 ネットワーキング

国内外の教育関係者と情報共有の機会を提供してもらい、共同プロジェクト実施の可能性ができた。

### 4 小学校での授業

英語だけで授業をする際の雰囲気づくりについて、高校でしか教えたことのない自分にとって、小学校の先生方から学ぶことが多くあった。

# Action Plan

## オンラインプロジェクトの実施～日韓の歴史教科書についての意見交換

9月 プロジェクト参加者募集

10月 第1回オンライン交流(自己紹介)

11月 第2回オンライン交流(意見交換)

## 生徒や職員への情報共有

生徒・・・総合的な探究の時間で報告

職員・・・職員会での報告



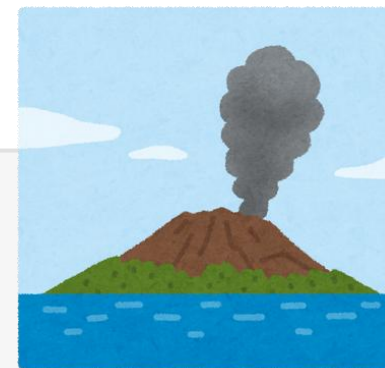


## Reflection

### 今回、全体として一番感じたこと



◎日韓国交正常化からまだ60年しか経っていない中で、まだまだ課題だらけであるのは当たり前だということを再認識した。たかだか自分が生まれる10年前からの、「占領していた側の国」と「されていた側の国」の関係構築であり、そもそも隣国との関係というものは難しい。イギリスとフランス。インドとパキスタン。ロシアとウクライナ。数日前に起こってしまったタイとカンボジアの件。慰安婦の問題も竹島の問題も、両国民が心から納得して解決するまでにまだまだ時間がかかりそうに思う。国家ができることの限界もあり、さらに不安定であやうい感じのする政府も増えていて、日韓両国がそれに巻き込まれたり振り回される懸念もある。教育や交流活動にしか果たすことのできない何らかの役割がある可能性を今回のプログラムでもあらためて実感した。多大な時間と労力をかけて準備し、歓迎してくださった方々全てに心から感謝する。



### ① 今回の韓国訪問での学びを国際平和デー・人権デーに合わせて校内外に発信

ユネスコスクールとしての取り組みの一つとして、9月、12月の国際平和デー、人権デーの時期に、学校訪問の様子などの紹介に加えて、「平和」や「人権」に関連づけて発信する。（校内で発行しているIB通信、学校HP、朝礼、授業等で。）

### ② 韓国の学校との交流・提携



国際デーに合わせたオンラインでの交流や動画やポスターを送り合うなどの共同プロジェクトをいっしょに考える。（ユネスコスクールやIB校であれば最適だが、同様の理念を共有できる学校であれば歓迎。）





# 振り返り

## ● 教師対話：

国籍や年齢、立場を越えて相互に理解し合う大切さを実感しました。現場の様子を共有し合い、今後への希望について語り合うことで、国際交流の場が常に前向きで明るい雰囲気にも包まれていると感じました。今後もこのような交流を継続していきたいと強く思いました。

## ● 学校訪問：

IB教育の実践現場を実際に見ることで、理論だけでは得られない多くの学びがありました。文化の授業では、日本文化や日本の遊びを紹介し、子どもたちが生き生きとした表情で真剣に参加してくれる姿に大きな刺激を受けました。

## ● ホームビジット：

韓国での生活を実際に体験する中で、現地のご家族から温かく迎えていただき、大変貴重で幸せな時間を過ごすことができました。

研修を通して奇跡的に出会った多くの方々が親切にしてくださいました。これまで日韓の先生方が25年間繋いできたバトンがあったからこそ、私がここに来ることができたと思います。していただいたことを返していけるように、そして偶然を必然にしていくために行動を起こしていきたいです。今回のプログラムに関わった全ての方に感謝しています。





# アクションプラン

## ①韓国の学校とのオンライン国際交流

今回の派遣で築いた現地の先生方とのつながりを大切にし、定期的に私の所属する学校とオンラインで国際交流を行う。お互いの国の文化や歴史、学校生活について理解を深める機会を提供することで、生徒の国際理解と関心を育み、今後の学びや交流の基盤を築いていきたい。

## ②研修内容の共有

今回の研修で学んだ韓国の教育の特色、日本文化の授業を行った際の韓国の学生の様子などを総合的な学習の時間や学級活動を通じて生徒に伝えたい。また、同じ学校の職員へはIB校の具体的な取り組みや韓国の国際理解教育について、職員研修の時間を利用して伝えたい。これらの学びを共有することで、学校全体として国際理解や多文化共生への意識が高まることにつながっていく。また、生徒が多様な価値観や考え方に触れ、自分自身の視野を広げる機会としたい。そして、異文化に関心を持ち主体的に学ぶ姿勢を育む土台を築くことを目指す。



# action Plan

## ✓ 研修内容の多角的共有会の開催

学校内だけでなく、長野県内の養護教諭・教育関係者も交え、韓国の文化理解や外国にルーツが児童生徒への支援、養護教諭の展望等をテーマに報告会を実施。

## ✓ 多様な文化に関する情報発信

保健だよりやT・Tでの授業等を通じて、研修で得た知見や課題意識を広く発信し、理解を深めるきっかけ作りを行う。

## ✓ 日韓友好に向けて

希望する生徒を対象に、日韓の文化理解を促進する会を発足・企画をする。  
韓国で出会った先生方と定期的に交流を続ける。

## ✓ 연수내용의 다각적 공유회 개최

학교 내 뿐만이 아니라, 나가노현내의 양호 교사·교육 관계자도 함께해, 한국의 문화 이해나 외국에 뿌리가 아동 학생에의 지원, 양호 교사의 전망등을 테마로 보고회를 실시.

## ✓ 다양한문화정보발신

보건 소식이나 T·T에서의 수업 등을 통해서, 연수로 얻은 지견이나 과제 의식을 넓게 발신해, 이해를 깊게 하는 계기 만들기를 실시한다.

## ✓ 한일 우호를 향하여

희망하는 학생을 대상으로 한일 문화 이해를 촉진하는 모임을 발족·기획한다.  
한국에서 만난 선생님들과 정기적으로 교류를 이어간다.





## action Plan

- ✓ **Holding of a multifaceted sharing session on training content**  
Not only within the school, but also with the participation of special needs teachers and education professionals from across Nagano Prefecture, a briefing session was held on topics such as understanding Korean culture, supporting students with foreign roots, and the future prospects for special needs teachers.
- ✓ **Spreading awareness about different cultures**  
I will disseminate the knowledge and awareness we have gained through training on this issue and create opportunities for deeper understanding through health newsletters, team teaching classes, and other means.
- ✓ **Toward Japan-South Korea friendship**  
I will plan and hold conferences to understand Japanese and Korean culture, and implement them for interested students.  
We will continue to regularly interact with the teachers we met in South Korea.

- ✓ **연수내용의 다각적 공유회 개최**  
학교 내 뿐만이 아니라, 나가노현내의 양호 교사·교육 관계자도 함께해, 한국의 문화 이해나 외국에 뿌리가 아동 학생에의 지원, 양호 교사의 전망등을 테마로 보고회를 실시.
- ✓ **다양한문화정보발신**  
보건 소식이나 T·T에서의 수업 등을 통해서, 연수로 얻은 지견이나 과제 의식을 넓게 발신해, 이해를 깊게 하는 계기 만들기를 실시한다.
- ✓ **한일 우호를 향하여**  
희망하는 학생을 대상으로 한일 문화 이해를 촉진하는 모임을 발족·기획한다.  
한국에서 만난 선생님들과 정기적으로 교류를 이어간다.





# 活動の振り返り

## <小学校>

- 日本より設備や人員配置に費用が充てられているようでした。
- カウンセラーが常駐しているなど、メンタル面のサポート体制が充実していました。

## <高校>

- 大学受験のみを目指した詰め込み教育から探究的な学習へシフトしている学校も最近は人気なようです。
- 小学校同様、メンタル面のサポート体制が充実していました。
- 21時まで学校に残って勉強する生徒がいることに驚きました。

## <済州4.3平和記念館、済州海女博物館>

- 日本人があまり知らない韓国と日本の歴史を学びました。
- 平和のためには、お互いの歴史や文化を理解した上で対話をするのが大切だと感じました。

## <日韓教師対話>

- 様々な校種、立場の先生方に学校現場の様子を聞きながら、交流を深められました。

## <ホームビジット>

- 韓国のご家庭に伺い、夕飯を一緒に食べながら交流を深めました。



# アクションプラン

## ① 学校内での報告、研究収録への執筆

- ・ 職員会議で研修の報告をする。
- ・ 校内の研究収録に執筆することで、体験を記録として残す。

## ② 担任、教科担当の先生方と協力して日韓交流を行う

- ・ 職員会議で研修の報告をするとともに、日韓の国際交流に興味がある先生を募る。
- ・ 興味がありそうな先生方と内容を協議し、交流のパイプ役になる。
- ・ ある程度やりたい内容が固まったら、ソウル特別市教育庁の国際共同授業へ応募する。
- ・ 興味を持ってくれる先生がいない場合は、まずは校内で国際交流の必要性を伝える活動を行っていく。





## ピョソン高校

IB校として、探究・対話・国際理解・思考力を重視した授業の展開  
身体的・精神的だけの安心を与えるのではなく、自分の考えを伝えたりしても他者が受け入れてくれるという安心の環境づくり



## インファ小学校

給食で有名なインファ小学校  
もちろんおいしかったです。◎  
給食指導では、残す文化の改善が考えられいたり、学年で時間を分けていることで混雑を避けているという工夫



## ホームビジット

韓国の歴史的建造物の訪問や市場に行ったり、食事を共にすることで、深まった絆。様々な韓国文化についても教えていただきました。その日だけでなく、別の日にも招待いただき、歓迎していただきました。



## 日韓教師対話フォーラム

日韓の教育について、類似点と相違点について話し合いました。また、互いの教育課題を話し合うことができました。改善に向けては、難しいものもありましたが、共に悩んでいるということを知れただけでも心が軽くなりました。



## 済州4.3平和記念館

平和について改めて考える機会となりました。まだまだ継続して歴史を追求しなければならない。後世に正しく伝えていかなければならない。教師として、大きな役割を担っているように思いました。





## ①職員報告会

目的：韓国での教育現場視察や教職員交流を通し得た知見を共有し、教育における「平和」や「多文化共生」の視点を教職員動詞で対話・共有する

⇒「生徒に“平和”をどう体感させる？」「“異文化理解”の豆まきをどうするか？」

## ②授業：韓国文化等の紹介

目的：韓国プログラムを通して得た学びを生徒に共有し、多様性や平和、世界とのつながりについて自分なりに考える機会とする

内容：写真・動画を用いた現地紹介/印象に残ったこと（韓国の教育現場・子供たちの生活・文化の変化など）

## ③掲示物：世界市民教育🌐

目的：生徒が世界とつながる視点をもつきっかけとなるよう、韓国プログラムで得た視点・資料をビジュアルで伝える

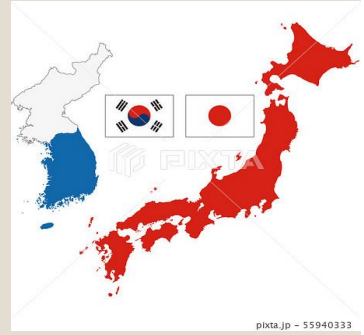
内容：キーワード掲示でそれぞれについて掲示する（「文化」「教育」「多文化共生」「世界市民」「平和」）その後、生徒それぞれの考えを自由に掲示できるスペースを作る





# 日韓教師対話プログラム2025 ふりかえり

～みんなでつくりあげる教育共同体～



## ①新鮮な出会い、感動の再会

＝日本及び韓国で教育実践をしている人との「素晴らしい出会いがあった。また、2年前に出会った文山水億高校との共同研究が続き、国境を越えた学習成果が形成されつつある。今回のプログラムでは、友人との再会を果たした。

## ②韓日自然環境の共有

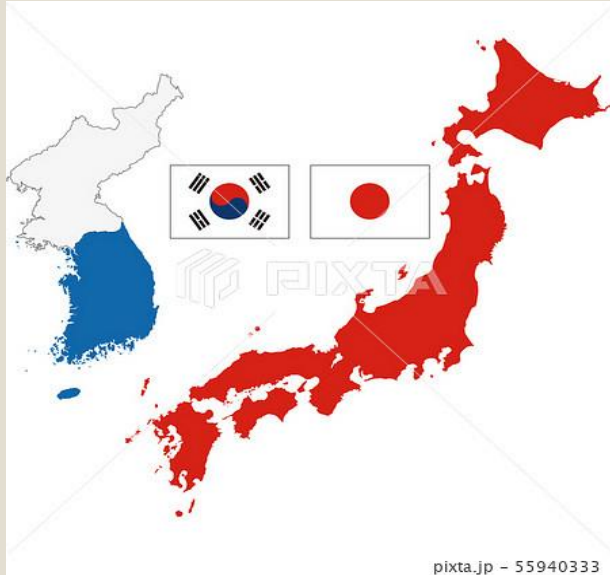
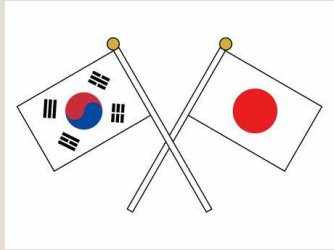
＝済州島はジオパークやオルレなど、豊かな自然環境に恵まれていた。海女文化の継承なども含め、その豊かさを韓日相互で発見していきたい。

## ③韓日歴史観の克服

＝日韓近代史における植民地支配の問題、解放後の4.3事件などの歴史課題と真摯に向き合い、負の歴史を克服することで、未来志向の韓日関係を形成していくための継続的な対話が重要である。

# 韓日の架け橋 Co-Bridge PROJECT

～持続的な相互理解のためのビジョン～



○国境を越えた対話の実現

○高校生防災・平和フォーラムの実現

## 【Action Plan】

### ①韓日の対話の持続

=心の橋をかけることで、お互いの心の壁を取り除いていく ～対話とは広い意味で暴力へ抗する営みである～

### ②韓日友好交流の推進(対面 / オンライン)

=過去の歴史を正視し、未来への意志を紡いでいく。

7月末、JENESYSプログラムにより韓国全土から選ばれた高校生60名と本校での学校交流が実現！

### ③東日本大震災 記憶の伝承

=大震災の記憶を次世代に伝承し、命と生活を守るための防災教訓を共有していく。



# 研修の振り返り



## 01 高校・小学校訪問

訪問した高校ではIBプログラムを取り入れ、生徒たちが社会の課題について取り組んでいました。また、小学校では日本文化についての授業を行いました。児童たちは事前に日本のアニメのキャラクターを描いたウェルカムカードを作っていて、準備段階から日本の文化を学ぶ子どもたちがいました。訪問した2校について、「子どもたちが活動に主体的に学びに向き合っていること」を共通して感じました。

## 02 日韓教師の交流

韓国の教師の教育への熱量を感じました。例えばIB教育など、めざす教育の理念や教授法ををリーダーの教師を中心に、多くの教師が共通理解を持ち、チームとして教育実践をされておられました。遅い時間までの勤務があると聞いたので、働き方に課題があるように考えていました。しかし、長期休みはリフレッシュについて話されていたことから、仕事と休暇のバランスをとって、健全な状態を作っていることがわかりました。



## 03 済州島の文化

「4・3事件」「済州の海女」などについて、済州島の過去から現在への文化について学ぶことができました。歴史的背景を知ることで、人の関わりが深まると感じました。また、外国にルーツのある子の増加に対応できる「多文化共生センター」の存在など、これからの多文化共生社会の形成に向けた施設の充実も見られました。これから済州島で暮らしていく人々がより幸せな環境で生きられるように様々なことが行われていました。

# アクションプラン

## めざしたいこと

他の教員と力を合わせて、幸せな社会を実現するために「多文化共生」の取り組みを充実させたい。



## 01 生徒への還元

文化祭の国際理解の展示ブースでの展示を行う。

多文化共生の単位における授業に、研修で学んだことを組み込む。

生徒の希望に応じて、実現可能な生徒間の交流を検討する。

## 02 日本・韓国の先生と

「校内研修」等の場で伝達研修の場を計画する。

韓国の教員とのつながりを大切に、お互いの必要性に合わせて、生徒間や教員間の交流ができるように努める。





# 活動の振り返り

## ① ピョソン高校訪問

I B 教育についての概要を知るだけでなく、そこで学ぶ生徒の様子を直接見ることができ、貴重な機会となった。特に、韓国語や英語、翻訳アプリを駆使しながら、自分たちで取り組んだプロジェクトについて一生懸命アピールする生徒の姿が印象的だった。“Better Me, Better World”のビジョンのもと、今後の将来を見据えて、一生懸命学んでいる生徒の様子がうかがえた。

## ② インファ小学校訪問

自分自身も小学校教員なので、日韓の比較を意識しながら見学できた。国際交流が盛んで、カンボジアやフィリピンとも交流経験があると聞き、驚いた。そして、児童が自ら楽しんで活動している様子が見られた。ピョソン高校でも感じたが、子どもも大人も、日本に対してとても好意的だと思った。文化交流授業を実施し、日本の学校や子どもの様子を楽しく伝えることができた。

## ③ 済州 4・3 平和記念館訪問

日本ではほとんど知られていないであろう「済州 4・3 事件」について、豊富な写真資料や熱心なガイドによる説明をもとに学ぶことができた。歴史を学ぶことの重要性を再確認できた。

## ④ 日韓教師対話25周年記念教師フォーラム

様々な校種の韓国の教員と話げできた。国は違っても、日本に興味をもち、努力している教師がたくさんいるという事実は、自分の今後の教員生活にとっても大きな励みになった。

# アクションプラン

## ①【国際理解授業の実施】

済州島での研修をもとに、「韓国の学校」や「世界遺産」等をテーマにした特別授業を行う。写真・映像・実物資料を活用し、子どもたちにリアルな異文化理解を促す。

(内容例) 韓国ってどこにある？／挨拶／ハングル文字／韓国の学校／日本と韓国の共通点・相違点  
韓国で人気の日本文化（アニメ、音楽）／インファ小学校での文化交流授業の様子 等

## ②【教職員向けの研修報告】

教員研修や校内研究の場で、済州島での研修報告を行い、国際理解教育の重要性や具体的な授業実践例を共有する。また、文化交流等の国際理解教育を行う際の方法や窓口に関する情報を共有する。まずは、職員自身が国際理解教育の楽しさを実感できるよう、クイズやゲームを取り入れる。

## ③【児童の視野を広げるメッセージの発信】

「世界は広い」「異文化はおもしろい」「知らないことに会うことは学びの宝」というメッセージを、日々の学級経営の中で自然に伝えていく。また、自分たちの生活は外国の人との関わりなしでは成り立たないという事実気付けるような活動や支援を心掛ける。

(内容例) 世界地図掲示／教室内外の掲示物の工夫／学級だより／外国語の歌  
教科書の記載内容を掘り下げる／身の回りの外国製品・文化調べ







# 振り返り

## 2025韓国政府日本教職員招へいプログラム

### 日韓教師対話の歩みの一員

式典やフォーラムで多くの先生方や関係者の方からお話を伺い、本プログラムの歴史やこれまで関わった方々の取り組み、思いを知ることができました。国家間の問題やコロナ感染症などの課題を乗り越えて継続してきた交流に自分も貢献したいと強く感じました。また25年にわたって築かれてきた日韓の教育交流の歩みに、自分も加わることができたことを大変嬉しく、光栄に感じました。

### 活発な教員交流

本プログラムでは多くの方々との出会いに恵まれました。日本全国から集った日本の教職員はみなさん高い目的意識や行動力をお持ちで、教育実践や今後のビジョンなどを様々な場で共有し多くの刺激を受けました。また韓国の教職員の方々と各国の課題について議論を交わせたことも印象に残っています。フォーラムや博物館訪問などで韓国の先生方と時間を共有できて、つながりを感じました。

### 個人の旅行ではできない体験

ピョンソン高校とインファ小学校を訪問し、児童生徒と交流したこと、インファ小学校の児童のご家庭を訪問し対話したことは本プログラムで最も心に残る思い出となりました。韓国の児童生徒が勤務校の生徒からの質問に答えてくれたので、帰国後の授業で生徒に還元する予定です。またホームビジットでは翻訳アプリを使いながらとても話が盛り上がり、教育のこと、家庭のことなど深い対話ができました。

# 02 アクションプラン

2025韓国政府日本教職員招へいプログラム

## オンライン交流の相手校を見つける

今回のプログラム中に相手校を見つけることはできませんでした。しかし交流の相手をマッチングして頂くプログラムなど、相手校を見つける方法をいくつか知ることができたのが収穫でした。どんな交流をしたいかビジョンをまとめ、勤務校での日韓交流を実現するために校内で働きかけていきます。

## 児童・生徒間の交流

勤務校の生徒から「韓国の生徒に聞きたいこと」を英語で考えさせ、ピョソン高校、インファ小学校の児童生徒に答えてもらいました。授業で答えを還元し、韓国の児童生徒の日常生活や韓国で流行っていることを知ることによって国際交流や異文化理解への興味を持たせます。

## 本プログラムで得たものを勤務校の国際交流事業に取り入れる

今回の交流で最も充実した内容だったと感じるのはホームビジットです。短時間でも色々なお話しができ、言語の壁を越えて心を通わせる体験ができました。勤務校ではホストファミリーの確保が難しく課題となっていますが、宿泊を伴わない「ホームビジット」という形式の交流なら挑戦しやすいと感じました。勤務校では提携校との交流を更に発展させたいという話題が以前から出ているので、教員間の交流の新たなアイデアとしてホームビジットを実現するために調整中です。またピョソン高校やインファ小学校で児童生徒からのおもてなしに感動し、本校でも歓迎のアイデアを取り入れたいと思いました。





# 振り返り

## 人と人とのつながり

志を同じくする者同士が対話を重ねることで、国際交流や国際理解の礎を築くことができるのだと実感した。そして、人と人がつながって初めて国際理解・国際交流が成立するのだと感じた。

## 百聞は一見に如かず

国際交流や国際理解においては、他人からそのノウハウを聞くだけでは机上の空論に過ぎない。やはり実際に自分の目で見て体験することが重要であると再認識した。

## 教育観の共有

韓国の高等学校においても、大学入試により教育の「理想」と「現実」があるという話を実際に韓国の先生から聞いた。高等学校における教育に対する理想と現実の葛藤は、日韓で共通していると感じた。

## 幸せな学校：

### みんなでつくりあげる教育共同体

文化授業を行った際の、「学ぶ楽しさ」「分かる楽しさ」を体現する児童の姿が特に記憶に残っている。教育の根底にある大切なことを再確認することができた瞬間であった。

## 「近くて遠い国」から「近い国」へ

ニュースや新聞などで見聞きしていた一面以外を知ることができ、韓国が物理的にも心理的にも「近い国」に変容した。中でも、ホームビジット先でホストマザーが言っていた「日本が今抱えている社会的・教育的問題は近い将来の韓国の問題になる」という言葉が特に印象に残っている。隣国同士抱えている問題は近いものがあるため、日韓で相互理解を深め、より協力・協働できるようになれば、互いの社会的・教育的問題の解決の一助になるのではないかと感じた。



# アクションプラン

## 授業でのプレゼンテーション発表

教科担任をしている英語の授業にて、韓国の歴史や文化を英語でプレゼンテーションして伝えるなど、プログラム期間中の学びや経験を生かした授業を実践する。

## 文化祭での展示発表

文化祭にて、プログラムの内容を展示発表し、全年次生徒と教職員、保護者、地域の方々にもその学びや経験を共有する。

## オンライン国際交流

教科担任をしている英語の授業やクラス担任をしているホームルーム活動にて、韓国の高等学校とICTを活用したオンライン国際交流を行う。







# 活動を振り返って印象に残ったポイント

## ①言語能力

→ (1) 表善 (ピョソン) 高等学校訪問

- ・多くの生徒が日本語で説明することができる

(2) 仁和 (インファ) 小学校訪問

- ・英語の理解力、ボキャブラリー、発言

## ②子どもたちの主体性

→ (1) 表善 (ピョソン) 高等学校訪問

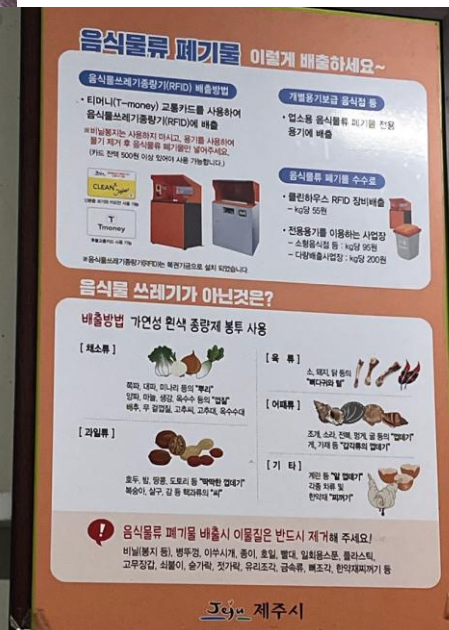
- ・実地調査の実施、
- ・自分の得意を生かした調査・制作

(2) 仁和 (インファ) 小学校訪問

- ・国際交流への興味、関心、意欲
- ・自分の欲しい情報を得るための情熱

## ③環境保護

- ・食品ロスへの取り組み ・生ごみの処理方法





# アクションプラン!

## ①本校教職員向けの報告会の実施

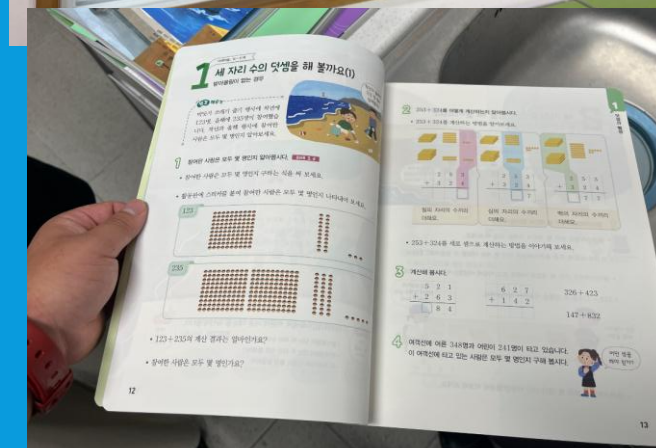
韓国の学校や教育施設の見学等を通して学んだこと、感じたこと、人との出会いについて共有を行い、本校の教育活動をより良いものにできるように考えるきっかけとする。

## ②児童・保護者向けに国際理解の授業を行う。

9/20(土)の道徳地区公開講座において道徳「3つの国」(国際理解・国際親善)に続けて総合的な学習の時間として訪韓報告会及び国際理解、国際親善に関わる(子どもたちにとって身近である学校や食文化を中心に)授業公開を行う。そこで、児童の国際理解への興味、関心を高めていく。

## ③日韓共同授業の実施

子どもたちの興味、関心を基にして、本交流において交流をした先生の学校または、ソウル教育庁や大使館に紹介いただいた学校と手紙等のオフライン交流からZoom等を通じたオンライン交流まで両校の必要と場合において適宜行う。





# 全体を通して考えたこと、心に残ったこと

本プログラムを通じて関わった韓国側の全ての方々から、私たちの滞在が良いものになるように最大限の配慮をしてくださっていることが伝わり、本プログラムが多くの関係者に大切に愛され続けていることがよくわかった。ご尽力くださった韓国の方々に心から感謝申し上げたい。韓国で出会った方々が、日本に対してどのような思いを背景に抱えているのかを私は知る由もない。様々な思いがあったとしても（あると思っているからこそ）、行く先々で受けた笑顔であたたかい歓迎が最も印象に残っている。そのような一人ひとりの優しさや好意で生まれるあたたかい交わりの中で、平和の礎は築かれていくのだと再確認させていただいた。次世代を担う生徒にも心を通わせる経験をさせることが教育者としての使命だと感じている。子どもと教育にはいつも未来がある。ユネスコの理念のもと、25年間の歴史の中で脈々と受け継がれてきたあたたかい交流の輪の一端として、私自身も後世に紡いでいきたい。

# アクションプラン

## 英語授業開発

国際バカロレア教育  
問いから生徒に探究させる  
授業づくり。Essay  
Writingの授業に応用。カ  
リキュラム及びワークシ  
ートを開発する。

## 知見の共有

草の根の活動  
PTAで保護者に韓国教育へ  
の理解や連携の輪を広げる。

## 韓国研修旅行

千葉県高等学校教育研究部会ESD部会で韓国研修旅行を立ち上げたい。（制度を活用し、助成金申請中。）

必要なコト・モノ

- ・韓国ユネスコスクールと連携

やりたいこと

- ・韓国の高校での授業体験や歴史、文化についてのフィールドワーク
  - ・新しい日韓関係の構築を担う若者に友好的な相互交流の機会を提供
  - ・事前学習で韓国の伝統行事や文化（韓服など）を体験できるワークショップを実施。
  - ・事後学習として、生徒たちが学んだことやプロジェクトの成果を学校内外の関係者に向けて発表する場を設ける。
- ★韓国の高校と姉妹校関係を構築し、韓国からも生徒の受け入れを行いたい。





# 【 振り返り 】

## 出会い、学び合い、通じ合い、そして...つながり合う ～韓国済州島で感じた真の国際交流の形～

### ☆ Pyoseon High School 訪問 ☆

生徒たちが、海洋汚染などの社会問題について、グローバル（Global+Local）な視点で主体的かつ協働的に探求活動に取り組む姿が印象的だった。  
日本の教員からの異なる視点や問いかけにも工夫して答えようとし、自分たちの学びを創造的に広げようとする姿に感銘を受けた。

### ☆ Inhwa Elementary School 訪問 ☆

施設見学だけでなく、実際に授業をさせていただき、韓国の小学生の反応や関わり方を肌で感じる事ができた。

Inhwa Elementary Schoolの全ての施設が「児童ファースト」だった。子どもたちが素晴らしい教育環境の中で多様な体験ができていることを目の当たりにし、教育のありかたを改めて考えるきっかけとなった。

### ☆ Home Visit ☆

この歳でホームビジットの機会をいただけること自身、非常に貴重な経験だった。

韓国の家庭の温かさや文化を肌で感じ、多少言葉が通じなくても、翻訳アプリや表情、ジェスチャーを通じて、心の交流ができた。

最終日、ホストファミリーが空港に見送りに来てくださり、ご家族の優しさに胸が熱くなった。

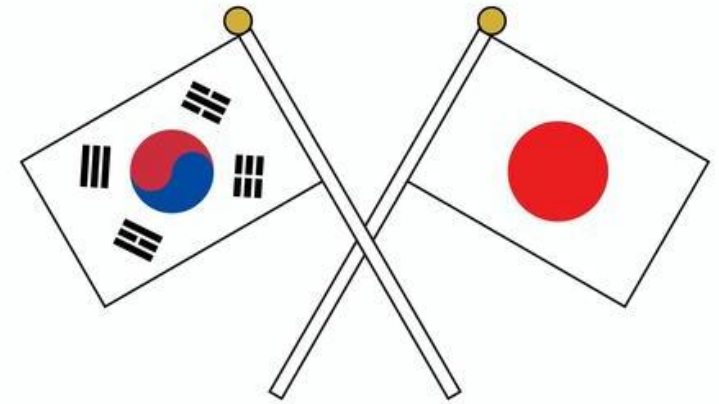
### ☆ 日韓教師対話 ☆

韓国の先生方と直接話をする中で、教育への思い、子どもへの思い、日々の悩み、実践の工夫などの率直な対話ができた。

政治を通じた関係でもなく「同じ教員としての視点」でつながることができたのは非常に意義深く、草の根レベルの国際交流の意義を強く感じた。



# アクションプラン



## 【報告会】

- ・教員向け報告会：夏休み最終日に（スライドにて）
- ・児童向け報告会：9月の全校朝会にて（クイズ形式）

## 【掲示】

- ・英語ボードと英語ルームの掲示板、2か所に研修の写真を掲示

## 【授業】

- ・「リングフランカ（世界共通語）としての英語」：英語および外国語を学ぶ意義を今一度子ども共に考える。

## 【国際理解教室『韓国WEEK』の実施／2月9日～13日】

- ・児童実行委員が韓国について調べ発表する。（探求学習）
- ・Inhwa Elementary Schoolでの様子を動画で流したり、韓国の子どもたちが書いた日本についてのアンケートや感想文を掲示したりする。
- ・日本に住む韓国の留学生による韓国語講座を開催。
- ・韓国学校の生徒とK-popダンス大会を開催。
- ・韓国学校の先生方と韓国料理教室を開催。
- ・児童実行委員から挙げたアイディアで可能なものは実施。（韓国の学校とのオンライン交流や手紙交換など）  
（子どもが主語の学校）

## 韓国での感動を再び…

## 『韓国WEEK』、始動します。





# 活動の振り返り：感謝と新たな発見、紡ぐ未来

「重なる生命、広がる世界」

文字にはない風景を、五感のすべてで感じ取る。

温かな繋がり、心を分かち合う仲間、満ち足りた時間と空間。

食は健やかな体をつくり、魂と魂が重なり合う。

隣り合う島々、あなたの濟州、そして私の故郷も、等しく尊い。

平和を育むことは、教職員の聖なる使命。人の心の内側から創る。

歴史に学び、幾多の悲しみと優しさを糧にして、

人は力強く、しなやかに生きている。生きてゆく。

雄大な海、そびえる山、果てなき空、自然は惜しめない愛で包み込む。

地球が一つの家ならば、私たちは地球家族。

未来を一緒につくる温かな地球家族の一員として

温かなチェンジメーカーとして

今日も私のできる小さな一歩を。

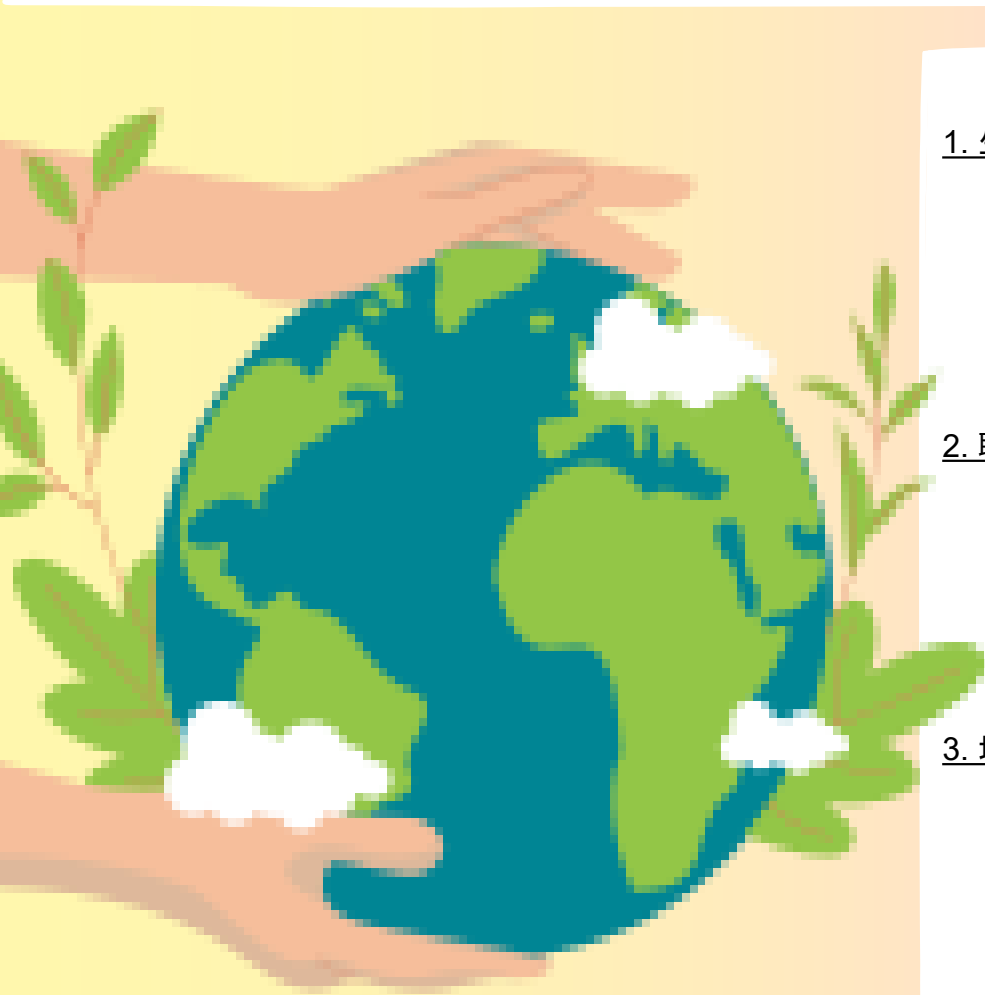


【ホストファミリーからの贈り物】

言葉を越えた温かさ。ビジット先の息子さんが描いてくれたイラストが、私たちの日韓の絆を永遠に刻んでくれました。

異文化理解は、対等な心から生まれるのですね。

# Action Plan ～地球家族として、未来へ繋ぐ小さな一歩～



## 1. 生徒向け授業版：世界への扉を開く

- 国際理解授業: 日韓関係や異文化理解を深める特別授業を実施。
- 韓国文化体験: ホストファミリーとのオンライン交流を通じ、韓国料理や国際結婚の多様性を学ぶ家庭科授業を企画。

## 2. 職員向け学校版：国際交流ってなあに？

- 経験共有会: 校内研修でプログラムの学びを共有し、国際的な視点を取り入れた教育実践を提案。
- 共同プロジェクト: 韓国だけでなく国内の学校とのオンライン連携など、教員間の交流を促進するきっかけ作り。

## 3. 地域向け多文化共生ワークショップ版：地域と世界を繋ぐ

- 済州島報告会: 地域住民向けに、済州島の魅力や交流体験を共有する報告会を開催。（子ども食堂で韓国フェア！？実施）
- 多文化共生ワークショップ: プログラムでの気づきを元に、地域で多文化共生を考えるワークショップを企画・運営。





## 振り返り

### 〈プロローグ〉

出発2日前に熱が出た。プチパニック。LineでSOSを出すと会ったことのない先生たちからACCUさんから助けがきた。休日診療をしている病院が近くにあり、検査も受けられた。熱も下がり検査結果陰性でホッとした。1日遅れて関空より合流、出発することができた。（すべてがLucky）体調管理がなにより大切。

### 〈ピョソン高等学校〉

一番楽しみにしていたプログラムだ。吹奏楽部演奏で出迎えてくれた。生徒のレベルや施設設備の充実さは大阪府立鶴見商業高校とは比べ物にならないくらい素晴らしかったが、生徒達の明るい振る舞い、行動を見ていると普段学校で見ているのと同じ光景があり、オンライン交流ができればすぐに友達になれるだろう。と確信した。

### 〈インファ小学校〉

韓国の小学校の教壇に立たせてもらえるなんて一生の思い出。好奇心旺盛な児童たち、人生で初めてサインを求められた。ひらがなで名前を書くとか嫌がる児童もいるかもと危惧していたが、喜んでくれた。異文化交流の教育がしっかりできている小学校で、自分の子どももこんな小学校が良かった。

### 〈済州多文化教育センター〉

廃校になった小学校をリノベーションして使用しているとのこと。学校跡地をまた教育のために利用できているのが良い。日本人嫁、子どものいじめ、同年代で結婚、子育てした講師より率直な話が聞けた。

## 〈済州4・3平和記念館〉

今、「別れを告げない」ハン・ガンを読んでいる。このプログラムに参加していなかったら読んでなかっただろう。私は4・3事件を知らなかった。調べると大阪鶴橋コリアンタウンに住む人は済州島出身が多いとのこと。事件をきっかけに移り住んだ人も多いとあった。平和学習に年齢はかんけない。今から始めよう。

### 〈日韓教師対話〉

「幸せな学校」～先生たちも生徒も幸せ～が印象に残った言葉である。教育の根源なのに、普段は合格率や進級という言葉に目を奪われ、忘れていた。きっと韓国にも負の面があるだろうが、私が見たピョソンやインファの生徒や児童、先生も活き活きとしていた。

### 〈エピローグ〉

Line、Papago、NAVERマップ、ChatGPT、KakaoTalk、Google翻訳これらのアプリがなかったら今回の研修は成り立たなかった。便利な世になった。そして、一番思ったのが、済州の教育への投資である。街は路上駐車に溢れ、ゴミ箱が溢れ、道も良くなかった。が、学校のクラス編成は30人以下、食堂で手作り給食が高校まであり無料、担任教師以外の学校スタッフ、地域の力も借り、国全体で教育に予算をつけ、次世代のひとを育てている。子どもが大事にされている。日本も公教育に今もっと予算を掛けなければ貴重な人材を失っている。済州にできて大阪にできない訳がない。どこに特化するか。教育に特化が必要。

# アクションプラン

## 〈①授業への還元、取り入れ〉

商品開発と流通の授業（37名）の生徒の質問にインファ小学校の6年生や、日韓教師対話で先生方にも質問に答えてもらったのでその様子の動画を見せ、自分たちの商品開発に生かすようにする。

（済州では自転車利用は少ない。自動販売機もない。飲み物はコンビニで買う、メガネの利用者は多い等答えてもらった。）自分たちが見ている生活だけが全てでなく、隣りの国の生活にも興味関心を持たせ、商品開発を考えると、身の回りのことだけでなく、グローバルに社会を見る目が必要と伝えたい。

## 〈②名刺の効果〉

私のメールボックスに見慣れぬハングルが、ソウルのヨンイル高校の先生から連絡をいただいた。新港橘高校との交換プログラムで10月8日、9日に大阪にいらっしゃるとのこと。「お会いしましょう」とのことだったので、早速会う約束をした。うまく伝わっているのか不安だが、オンライン交流に繋がたいと考えている。関西組の先生方、一緒に会いませんか？Lineで連絡ください。

## 〈③読書会への参加〉

「別れを告げない」の読書会に参加する。本の中に出てくるPとは表善（ピョソン）のことで、難しい本ではあるが、少し身近に感じながら本を読み進めている。

## 〈④その他〉

大阪府産業教育フェアにて鶴見商業高校の出店場所の一角に「ご自由にご覧ください」で日韓教師交流プログラムやピョソン高校の学校案内、済州のパフレット、ピョソン高校の活動の様子（模擬国連や課題研究発表会をpptでスライドショー）を展示した。

